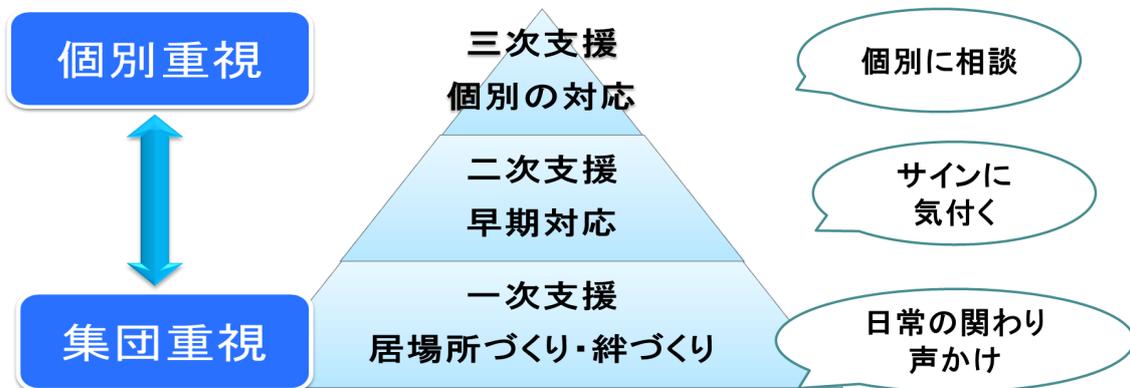


教育相談は特別なものではありません。それぞれの教職員が児童生徒一人一人に対して、あらゆる教育の場で行うものです。特に学級担任が行う教育相談の目的は「安心して安全な学級（居場所づくり）」「温かい空気で満たされている学級（絆づくり）」を基盤にして、一人一人に寄り添うことで児童生徒の心の成長や発達につながるように支援することです。

学級担任が行うメリット

あらゆる教育の場での教育相談



○日常的な教育活動のなかで対応できる。

- ・いつでも、どこでも、だれでも、ちょっとしたときに声をかけたり、話を聞いたりできる。
- ・児童生徒ががんばっているときに、さりげない称賛ができる。
- ・児童生徒の困難点を観察からキャッチすることができる。

○児童生徒のちょっとしたサインに気づき、早期に対応することができる。

- ・学級での友だち関係などのちょっとした変化に気づきやすい。
- ・気付いたときに、その日のうちに迅速に対応できる。

○個別の教育相談時間や場所を確保しやすい。

- ・昼休憩や放課後などの時間を使って全員に面談できる。
- ・周りに他の児童生徒がいない空間を準備できる。

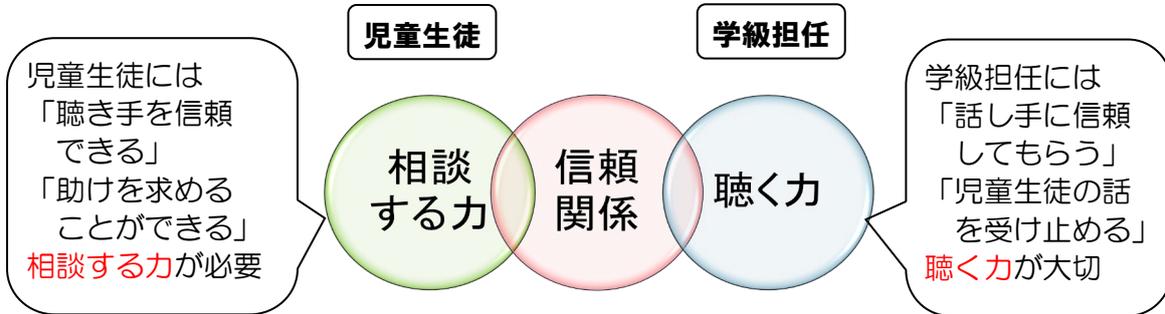
その児童生徒のためだけの特別な時間や場所を用意するちょっとした配慮が大切です。

ポイント

学級担任は、個別の状況に合わせて一次から三次までの支援を柔軟に組み合わせながら、一体的でより効果的な支援を進めることができます。

大切にしたいカウンセリングの基本

ポイント 相談は信頼関係のうえに



ポイント 聴き上手になる

カウンセリングで最も大切なことは「傾聴」と「共感」です。

★「傾聴」とは、こちらが「聞きたいことを聞く」のではなく、「相手が言いたいこと、分かって欲しいこと」を受容的・共感的態度で「聴く」ことです。評価や助言より、まず聴くことが大切です。

<聴き上手になるために>

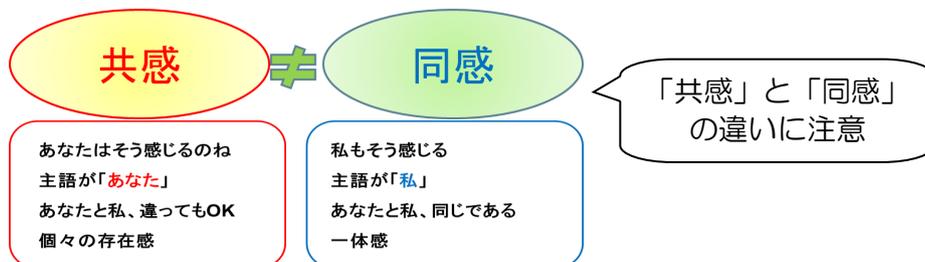
【態度】

- 相手に体を向け、目線を自然に合わせ、「全身であなたの話を聴いている」というメッセージを伝える。
- あいづちやうなずきで聴いていることを示す。
- ゆっくりした口調で、リラックスして話しやすい雰囲気をつくる。

【心構え】

- 反論や批判はせず、児童生徒のそうせざるを得ない気持ちを受容する。
- 相手の言ったことを繰り返したり、自分の感じたことを言葉で伝えたりして共感的に聴く。
- 相手の非言語的な表現（声の調子・表情・姿勢・手や目の動き）にも、気を配る。

★「共感」とは、価値観や先入観にとらわれることなく、相手の体験や価値観を理解しようとすることです。



話を聴いてもらうことで、①すっきりできる②担任との信頼関係が深まる③自己理解が深まる④問題解決に向かえる、などの効果が期待できます。